

1988年

1. 原著論文

- ・ 宗像恒次:燃えつき現象研究の今日的意義,看護研究,21(2):2-11.1988
- ・ 宗像恒次:アメリカの医学校の行動科学教育の現状,医学教育(日本医学教育学会誌),19(3):179-184.1988
- ・ 宗像恒次:保健行動科学の可能性—保健行動への実践的応用,口腔衛生学会誌,38:376-377.1988
- ・ 宗像恒次:多元化する社会と心理産業の出現,日本保健医療行動科学学会年報,3:228-245.1988

2. その他の論文

- ・ 宗像恒次:精神医療のこれからをどうする,新医療,15(1):84-88.1988
- ・ 宗像恒次:精神障害者医療福祉の世界の動向と我が国の今後,月刊福祉,71(4):51-57.1988
- ・ 宗像恒次:健康のセルフケア行動,看護技術,34(9):12-17.1988
- ・ 宗像恒次:民間医療・健康法の利用者の背景をさぐる,医療 4(8):21-24.1988
- ・ 宗像恒次:D.A. フェルドマン,T.M. ジョンソン編「エイズの社会的衝撃」,西三郎,姉崎正平監訳,第11章・エイズ—心理社会的な見地から,日本評論社,211-228・1988

3. 著書

- ・ 宗像恒次:「生と死と家族」長谷川浩編 第3章・慢性疾患患者のセルフケアと家族,金子書房,40-57.1988
- ・ Munakata.T:Life Style and Health—Sociocultural Origins of Health and Illness in Japan.,H.H.Flötter, H.Hasegawa, T.munakata(eds),Tradition and Modernity in Health Care,the First U.S–Japan Health Behavioral Science Conference,18-33.1988
- ・ 宗像恒次:「燃えつき症候群—医師・看護婦・教師のメンタルヘルス」土居健朗監修,金剛出版,1-208.1988
- ・ 宗像恒次:「精神保健」福祉養成講座編集委員会 第3章1節・家庭における精神保健,48-55 及び第3章3節・職場における精神保健,64-69,中央法規出版. 1988

4. 調査報告

- ・ 宗像恒次,北村俊則,仲尾唯治,藤原茂樹,生田憲正:精神保健度尺度の妥当性に関する研究,第2回研究助成報告要約書(健康科学振興財団),16-17.1988
- ・ Fujiwara.A, Takahashi.T, Munakata.T: Stressrelated Studies and Literature Summary,昭和62年度厚生科学特別研究報告書.1988
- ・ Fujiwara.A, Takahashi.T, Munakata.T.:Review Summaries for Stress Studies Journal Articles. 昭和62年度厚生科学特別研究報告書.1988